

当署開設80周年記念行事の取組みについて

久々野宮林署 労務係長 岩 本 道 彦

1. 目 的

国有林野事業を巡る厳しい諸情勢の中で、事業運営に当たっては、「職場の活性化に努めるとともに開かれた国有林を目指して国有林野事業の諸活動を地域経済との連携の下に展開する」という宮林支局の業務方針に即して、「開設80周年を契機として、元気で活力ある宮林署を目指して国有林野事業の諸活動の推進に努める」ことを当署の業務方針に掲げ、その達成のため、経常事業の円滑な遂行を図るとともに、80周年記念行事への積極的な取組みを行うこととしました。

2. 内 容

記念行事を契機とした「元気で活力ある職場」の実現には、①職員全員の同一認識と参加、②それぞれの行事に見合った構成と陣容、③各行事への職員の協力と事前の理解、④実施計画の事前周知及び職員の意見聴取と余裕を持った取組が大事であることを考え、これに重点をおいて取組みました。

当署が開設されてから平成2年1月1日に80周年を迎えることとなり、平成元年後半から実施行事の検討を進め、平成2年において経常業務に工夫を加えた内容を主とする記念行事を配置することとして準備を行いました。

計画した記念行事の骨子については、各課の代表から構成されている行事等企画委員会の立案に検討を加え署長が決定し、実施計画の内容やその行動については、例会等による周知などによって全職員に理解と協力を求め実行態勢を整えました。

計画の実施段階では、その都度事前に職員に案内するとともに、関係職員に具体的な内容や行動について説明し十分な理解を得てから実施に移し、その結果についても後日職員に報告しました。

精力的に取り組んだ主な記念行事は、次のとおりです。

(1) 80周年標識及び植樹祭標識の作製

標識の表現内容は、双方とも地元5町村との連携の下に地域とともに歩んできた国有林を強調した職員手作りによる雄大さを誇ったものです。

80周年記念標識は、2年2月に完成させ宮林署庁舎に6ヶ月間設置し、来庁舎に久々野宮林

署の歴史と役割のPRを行い、この標識は、現在新築が進んでいる久々野担当区事務所の側に設置することとしており、今後も長く活用していく考えています。

また、記念植樹祭標識は、5月に完成させ植樹会場に設置し、同会場がレクリエーションの森であることから、夏は散策、冬はスキーなどの来客にその趣旨を長く伝えることとしております。

(2) 記念講演会の開催

木材需要が量的、質的に減少する中で、飛驒の匠の精神を継承しながら飛驒の風土に適した住宅を開発するとともに、木材産業の振興を図るために何をすべきかを考えるため、飛驒地域木材関連産業振興協議会の後援を得て、4月13日に久々野町で開催しました。

第1部は、「木材住宅振興施策の現状と今後の展開」と題した基調講演を建設省の係官にお願いし、第2部は、木材産業や住宅建設の第一線で活躍されている4人のパネラーによる「飛驒の木造住宅及び木材産業の未来」をテーマにしたパネルディスカッションを行い、参加者のみなさんは、飛驒の匠がよみがえる道の方向付けが示され

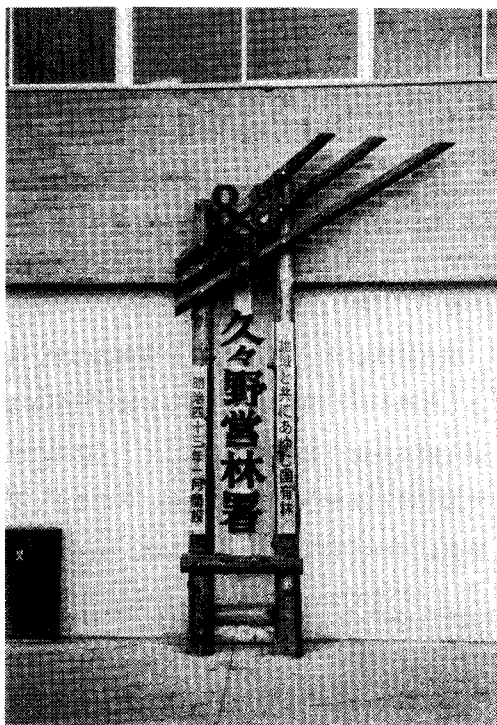


写真1 80周年記念標識



写真2 グリーンキャンペーンで外国人と話をする署長



写真3 記念講演会の全景

たことに大きな期待を膨らませ、盛況のうちに閉会しました。

(3) 記念植樹祭及び記念式典の開催

植樹祭は、久々野町、朝日村、高根村、萩原町、宮村の絶大な支援を頂いて5町村長の出席のほか、地域関係者、緑のオーナー、歴代署長などと全職員の330名が参集して6月8日に開催し、米国人留学生の女生

徒に一日署長を委嘱、当署フォレスター8人の紹介、その代表による「21世紀みどりの宣言」などを行い、地域との連帯を図る上から、「岐阜県の木」、「5町村のそれぞれの木」、「当営林署の木」などを植樹しました。

同日、会場を移して行った記念式典は、会場に組織変遷図、歴代署長の表、各種事業写真パネルなどの掲示とともに、地元5町村の紹介コーナーを設置して地域協調を図りました。また、出席された歴代署長の紹介、地元朝日村の協力を得て郷土芸能の披露など趣向をこらした運営により、参集のみなさんには国有林



写真4 植樹祭で一日署長を委嘱

内外や地域間などの交流とともに、一日署長を巡り多くの人たちが囲み、緑環境による日米親善が図られ、有意義な懇親の場となりました。

(4) 開設80周年記念誌の作成

記念行事の集大成として取り組んだ記念誌は、当署の歩んできた足跡として「御料林から国有林へその確かなあゆみ」、現在の事業活動として「80年の伝統を礎に飛驒の地をあゆむ」、未来への展望として「地域とともに21世紀への新たなあゆみ」を中心とし、3章に大別して取りまとめ12月に完成しました。

作成に当たっては、地元5町村長、関係業界の代表、歴代署長、職員OB、地域住民、岐阜大学大内教授など多くの方々に御協力を頂き、また、経常業務を遂行する中で全職員の参加と協力が得られ、大きな成果が得られました。

- (5) このほか、①職員が工夫した会場整備等により好調な販売結果となった素材公売の実施、②JR高山駅などの協力を得て、外国人も森林と緑に関心を示したグリーンキャンペーンの実施、③チェーンソーカービングによりフェアの催しの中で最大の注目を集めたウッドランドフェアへの参加、④外部講師を招いて森林生態系に関する知識の習得と森林インストラクターの指導方法に焦点を絞った森林施業研修の実施、⑤営林署の特徴を生かし森林浴の散策道を作り協賛した高根村の「日本一かがり火まつり」、⑥森林教室を開催し手作り動物足型スタンプが好評だった朝日村の「御岳・胡桃島自然観察会」の協賛、⑦岐阜大学大内教授に同席して頂き、天然更新を主題として4森林組合との林業技術交流をも含めた行った造林研修の実施など数々の行事を行いました。

3. 結 果

国有林野事業を巡る諸情勢は、改善計画に取り組んでいるように誠に厳しい状況にあります。職員の中には、現状では職員の減少により経常業務の円滑な実行さえ精一杯で、80周年記念行事など新たな業務等への取組実施には困難であるとの声も少なからずありました。これに対しては、当初から経常業務に工夫を加えた内容を基本として行事を計画するという姿勢で臨んでおり、その都度行事の趣旨と内容を明らかにして職員の理解と協力を求め円滑な実施に努めてきたところであり、実施段階ではすべての行事について順調に遂行させることができました。

80周年記念行事への取り組みとその実施によって、2年度業務運印に当たって節目ごとに大きなアクセントができ、本署・現場を挙げて実践した成果が支局のモットーとする「元気・私も一工夫」と当署の「元気で活力ある営林署」の達成につながったものと考えております。また、記念行事の実施を通じて地域における資料収集を介する相互理解や地域の協力と参加などによる連帯がなお求められ、国有林野事業及び久々野営林署への理解と協力を得るのにも一層役立ったものと確信しており、今後においても機会を得てこのような取組みを行う考えでいます。

実 施 月 日	記 念 行 事
2月中旬、5月上旬	80周年記念標識・記念植樹祭標識の作製
3月27日	記念公売の執行
4月13日	記念講演会の開催
4月24～26日	グリーンキャンペーンの実施
4月29～30日	ウッディランドフェアへの参加
6月8日	記念植樹祭及び記念式典の開催
7月20日	森林施業研修の実施
8月4日	日本一かがり火まつりへの協賛
8月7～9日	御岳・胡桃島親子自然観察会への協力 (森林教室の実施)
8月8～9日	造林研修の実施
12月1日	80周年記念誌の作成



記念誌の表紙

久々野営林署80周年記念誌

くぐりの

地域と共にあゆんで
その 過去と 現在 そして 未来

過 去

御料林から 国有林へ
その確かな あゆみ

現 在

80年の伝統を 礎に
飛驒の地をあゆむ

未 来

地域と 共に
21世紀への新たなあゆみを

編集内容